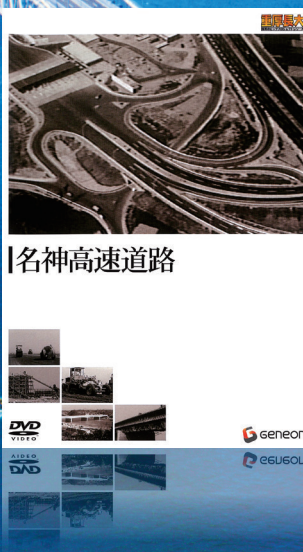


映画会



申込不要・入場無料(一般の方もご覧いただけます)

【日時】

9月3日(火)・5日(木)

(10:30 ~ 14:20)

(10:30 ~ 13:57)

【会場】

香川県社会福祉総合センター(1階コミュニティホール)



本行事は土木学会認定 CPD プログラムです。【9月3日(火) : 3.8 単位 / 9月5日(木) : 3.4 単位】

※施工管理技士会等、個人のCPD記録の登録申請に受講証明書を必要とする団体を利用されている方は、ご自身で建設系CPD協議会の登録申請・受講証明書フォーマットに必要事項をご記入の上、ご持参いただけますようお願いいたします。

※CPD単位は、各上映日の作品を全てご覧いただいた方に付与いたします。予めご了承ください。

映画会プログラム

9月3日(火)

上映時間	タイトル	映画の概要
10:35 ~ (77 分)	名神高速道路 昭和のビッグプロジェクトシリーズ	わが国最初の本格的な長距離高速道路である名神高速道路の建設工事を、用地買収から完成に至るまで克明に記録。車が 1 台も走っていない完成したばかりの一宮インター～西宮インター間を車載カメラと空撮により捉えた貴重な映像が満載。企画：日本道路公団 / 制作：日本映画新社
11:52 ~ (90 分)	パッテンライ!! ～南の島の水ものがたり～	「パッテンライ」とは台湾語で「八田がやって来た」の意。物語は全編アニメーション。舞台は80年前の日本統治下、台湾南部の華南平原。当時、華南平原は不毛の大地と呼ばれており、そこにダムをつくり、農業水路を張り巡らせて一大穀倉地帯に変えた大土木工事である。本作品は土木の魅力や土木工事の危険性、住民交渉の大切さ等が十分伝えられており、土木啓蒙の役割を十分に果たしている。将来を担う子供達や土木系の学生の人材育成にも役立つだけでなく、土木を知らない一般の人たちも楽しめる作品になっている。 第 23 回(2008 年)土木学会映画コンクール最優秀賞 / 土木技術映像 100 特選ガイド(89) 企画：緒方 英樹 / 制作：「パッテンライ!!南の島の水ものがたり」制作委員会、虫プロ
13:22 ~ (14 分)	JR 六甲道駅 復旧工事の記録	阪神・淡路大震災によるRCラーメン高架橋の被害状況と復旧の方法、線路開通までの足取りをまとめたもの。早期復旧を可能にした高架橋ジャッキアップ工法を分かりやすく、詳細に紹介している。 土木技術映像 100 特選ガイド(37) 企画：西日本旅客鉄道、奥村組 / 制作：ウィズ[製作]
13:36 ~ (44 分)	復興の道しるべ ～三陸鉄道北リアス線 震災復旧工事～ 第 28 回映画コンクール 最優秀賞受賞作品	本映画は、鉄道・運輸機構、鉄道総研、東急建設 JV の土木技術者が、東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸鉄道北リアス線の日も早い復旧に向けて想いをつなぎ、「目に見える復興のシンボル」となる GRS 一体橋梁を完成させ、北リアス線全線再開を通じ、被災された三陸沿岸の人々を力づけた奮闘記録です。一般市民の方々に土木技術者の役割を伝えるため、通常の工事記録映画とは異なるドキュメンタリー映画の手法を用いた記録映像です。 企画：独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、東急建設株式会社 制作：独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、東急建設株式会社、公益財団法人 鉄道総合技術研究所

9月5日(木)

上映時間	タイトル	映画の概要
10:35 ~ (95 分)	佐久間ダム総集編	工期 3 年、延べ 350 万人の人員を投入し、近代土木技術の総力を結集した歴史的大工事が始まった。戦後の経済復興を象徴する、当時日本最大の天竜川・佐久間ダムの建設記録。村人たちは長年住み慣れた家・村を去り、村はダム湖底に沈みゆく。未曾有の難工事に身を挺し今は亡き人々の礎石。 企画：電源開発 / 制作：電源開発、岩波映画製作所[製作]
12:10 ~ (35 分)	橋は生きている ～児島・坂出ルート架橋技術～	本州四国連絡橋(児島・坂出ルート 南備讃瀬戸大橋)の工事記録 監修：本州四国連絡橋公団第二建設局 坂出工事事務所映画編集委員会 監督：日下部水梓 第 29 回科学技術映画祭内閣総理大臣賞受賞 企画：本州四国連絡橋公団 第二建設局 / 制作：海洋架橋調査会、山陽映画
12:45 ~ (22 分)	昭和 34 年 伊勢湾台風	昭和 34 年(1959 年)9 月 26 日東海地方に未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風。その実態、緊急対策、災害復旧等を網羅し、復旧に向けた地域の不屈の努力と共に、伊勢湾台風土木技術者がどう立ち向かったのか。当時の建設省職員等のインタビューと記録映像によって描く。 土木技術映像 100 特選ガイド(93) 企画：中部建設協会 / 制作：日映映像
13:07 ~ (50 分)	東日本大震災、現場の戦い ～すべては被災地のために～	本作は東日本大震災における「啓開」「地域支援」「防災教育」の3つの戦いの現場のストーリーから構成されている。第 1 部「啓開」は平成23年3月11日に発生した東日本大震災の際、東北地方整備局の指揮により実施された、津波等による瓦礫で封鎖された沿岸部道路の啓開作業「くしの歯作戦」を記録した映像である。国土交通省の初期対応や具体的な啓開作業の状況、余震が頻発する中、自らも被災を受けながら現場で作業に携わった地元の従事者や自治体側のインタビューが多く取り上げられており、当時の状況がリアルに伝わってくる。第 2 部「地域支援」は、徳山東北地方整備局長の指揮の下、被災した各自治体にリエゾン(災害対策現地情報連絡員)として派遣された国土交通省職員によるテリトリーを越えた支援活動、国土交通省緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)による被災地での活動を紹介した映像である。徳山局長の「ヤミ屋のおやじ」宣言を受けて、派遣された職員たちが現場の手足となり、行政の枠を超えて困難な要請にも可能な限り応えていく姿が映し出されている。第 3 部「防災教育」では、地道な活動により長く受け継がれてきた防災教育を紹介している。過去の経験を伝承する「てんでんこ」の実践が功を奏し、津波から逃げ切ることが出来た釜石市の小・中学生の生々しい証言も取り上げられている。なによりも震災直後の現場の土木技術者・従事者の決断と戦い、緊急時の組織の姿、持続的な防災教育の重要性を撮影した数少ない貴重な作品であり、次代への財産として残したい。 第 25 回(2012 年)土木学会映画コンクール最優秀賞 / 土木技術映像 100 特選ガイド(97) 企画：国土交通省東北地方整備局